ご注意：

本書は取り扱い説明書から注意文など、製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したものです。操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった場合にお使い頂く事を念頭に編集しており、正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

尚、正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。

http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

ALINCO

特定小電力ハンディトランシーバー
（総務省技術基準適合品）

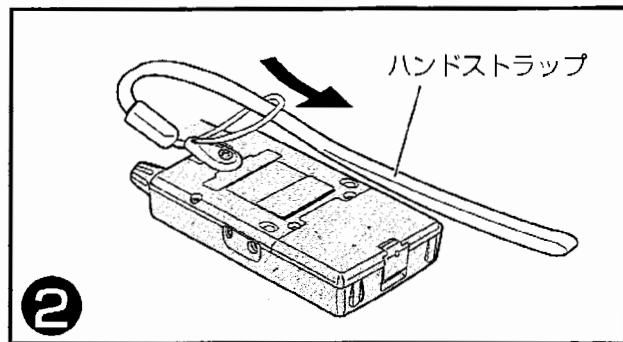
DJ-P9/DJ-P11
取扱説明書

アルインコのトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。本機の機能を充分に発揮させ、効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読み下さい。また、この取扱説明書は大切に保管して下さい。ご使用中の不明な点や不具合が生じた時、お役に立ちます。

アルインコ株式会社

目　次

ストラップチェーンの取り付け

ストラップチェーンを付属のネジで本機に取り付けます。

ストラップチェーンの穴にハンドストラップを取り付けます。

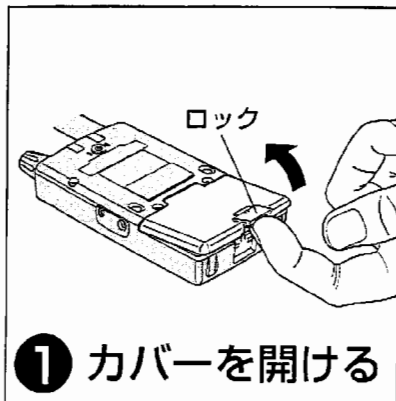
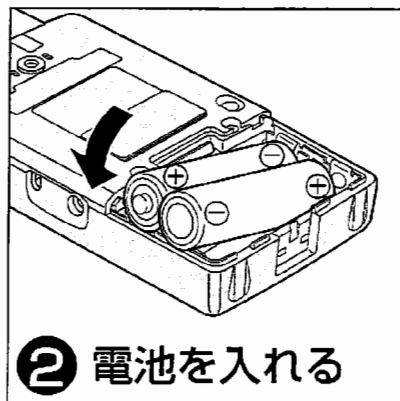
まず使ってみましょう

電池の入れ方

本機を初めてお使いになる前に、電池を入れてください。

❶ カバーを開ける

①ロックを外します。
②カバーを開けます。

❷ 電池を入れる

ケース内の＋・－の印と合わせて、新しい単三型乾電池を2本入れます。

注意 ＋・－の向きが違わないように注意してください。

❸ カバーを閉める

①ツメを合わせます。
②カバーを閉めます。
③ロックをかけます。
→きちんと閉まったことを確認してください。

もっとも基本的な使い方

本機の最も基本的な使い方を説明します。

5 音量を調整する

ダイヤルを1回押すと、「v」→「o」→「L」→「音量値」が表示されます。
ダイヤルを回してお好みの音量に調整します。
PTTキーを押すと表示が消えます。

2 チャンネルを合わせる

ダイヤルを回して、相手機と同じチャンネルに合わせます。

チャンネル・音量が表示されます。

4 受信する

受信すると、スピーカから相手の声が聞こえます。

3 送信する

PTTキーを押しながら、マイクに向かって話します。

注意　ディスプレイは、電池の消耗を抑えるために普段は消灯しています。
電源の切り忘れにご注意ください。

1 電源を入れる

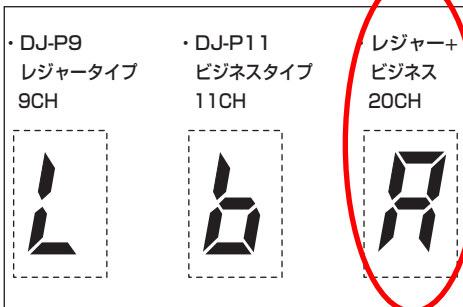
電源スイッチを上方向にスライドさせます。

マイク/スピーカ

チャンネルタイプ選択機能

本機で使用するチャンネルを、レジャータイプ9CH、ビジネスタイプ11CH、レジャー+ビジネス20CHから選択できる機能です。

・DJ-P9
レジャータイプ
9CH

・DJ-P11
ビジネスタイプ
11CH

・レジャー+
ビジネス
20CH

初期状態では、DJ-P9の場合、レジャータイプ9CH、DJ-P11の場合ビジネスタイプ11CHに設定されています。

チャンネルが合わない場合は
この操作を行って下さい。
Aを選択して下さい。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを12回押します。

→DJ-P9では「L」が、DJ-P11では「b」が点灯します。

②ダイヤルを回して、チャンネルタイプを選択します。

→チャンネルタイプは、「L」「b」「A」のいずれかを選択できます。

「L」：レジャータイプ9CH
「b」：ビジネスタイプ11CH
「A」：レジャー+ビジネス20CH

③PTTキーを押します。

→チャンネルタイプが確定します。

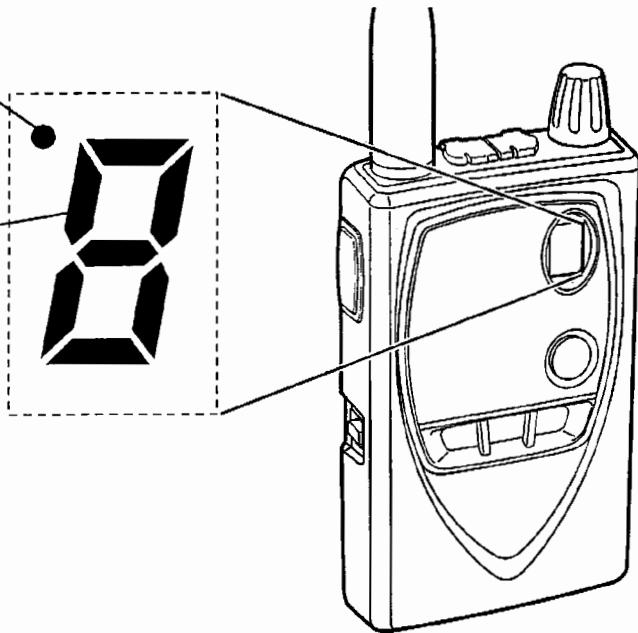
チャンネル番号表示（☞ P16）

ディスプレイ

ポインタ

送信中に点灯します。電波受信中にも点灯します。
数字表示と同時に点灯し、各種状態を表します。

数字表示器

チャンネルや音量、各種設定状態を数字やアルファベットにより表します。
また、電池の残量を10秒に1度、3本のバーでお知らせします。
（☞ P12）

各部の名前とはたらき

本機の各部の名前とはたらきを説明します。

アンテナ

注意 アンテナは外れない構造になっています。無理にアンテナを回したり引き抜いたりしないでください。

PTTキー

押すと送信します。
離すと受信に戻ります。
各種設定を確定する際にも使います。

電源スイッチ

上方向にスライドさせると電源が入ります。

マイク/スピーカ

マイクは口元と約5cm離してお話しください。

ディスプレイ

チャンネルや音量など各種設定内容が表示されます。
(☞ P15)

[F]キー(ファンクションキー)/[ロック]キー

セットモードの開始に使用します。
また、約1秒間押し続けると、キーロックができます。
再度押し続けると、キーロックが解除されます。
(☞ P33)

注意 ディスプレイは、電池の消耗を抑えるために普段は消灯しています。電源の切り忘れにご注意ください。

ダイヤル、
[音量/セットモード] キー
ダイヤルを回してチャンネルの変更など各種設定を行います。ダイヤルを押すと音量調整、F点灯状態で押すとセットモードの項目を選択できます。
DC-IN
外部電源接続端子です。
オプションのシガーライターケーブル（EDH-18）を接続すると、車中で使用できます。
ニッケル水素充電池、ニッカド充電池を装着しトリクル充電できます。（☞ P39）
注意
外部電源のプラグの抜き差しは、本機の電源をOFFにしてから行ってください。
イヤホン端子（Φ3.5）
イヤホンや外部スピーカを接続する端子です。
マイク端子（Φ2.5）
外部マイクを接続する端子です。

基本的な性能

電池について

本機で使用する電池の使用時間、および残量表示について説明します。

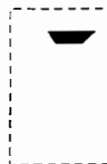
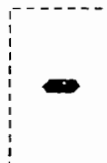
使用時間のめやす

[送信1：受信1：待ち受け8] の時間の割合で動作を繰り返した場合のめやすです。

マンガン乾電池	約35時間
アルカリ乾電池	約70時間
ニッケル水素充電池 2000mAhタイプ	約50時間

・使用環境、周囲温度によって若干変化します。
・電池は同じ種類の新しいものをご使用ください。
・大容量のアルカリ乾電池のご使用をお奨めします。

電池容量表示

電池の残容量は10秒に1度ディスプレイに3段階で表示されます。セットモードの設定で電池容量表示をOFFにすることもできます。(☞ P44)

基本的な性能

ディスプレイのチャンネル表示

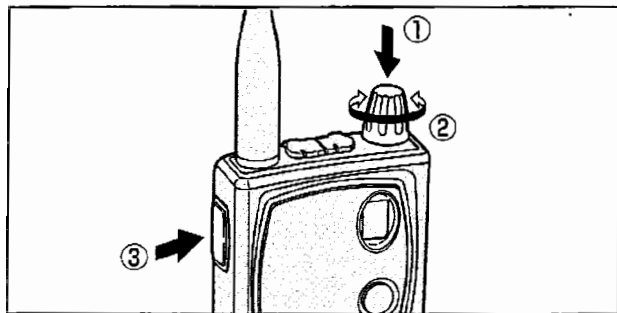
チャンネルを変更するには、ダイヤルを回します。ダイヤルを回した後、5秒間チャンネル番号を表示します。(電池使用時)
従来の特定小電力トランシーバーと周波数の互換性はありますが、本機特有のチャンネル番号表示となりますので、以下の表を参考にお使いください。

	チャンネル番号 従来機でのチャンネル表示	チャンネル番号 本機でのチャンネル表示
DJ-P9 レジャータイプ 9チャンネル ※	1 〜 9	1 〜 9
DJ-P11 ビジネスタイプ 11チャンネル ※	1 〜 9 10 11	ポインタ+1 〜 ポインタ+9 (ポインタ点灯) ポインタ+0 ポインタ+11

※チャンネルタイプ選択機能 (☞ P48) を使うと、全チャンネル使用可能

ディスプレイの「ポインタ」と「1」が同時に点灯すると、ビジネス1チャンネルを意味します。

音量の調整

本機の音量調整方法を説明します。

①ダイヤルを押します。

→「v」→「o」→「L」→「音量値」が表示されます。

初期状態は音量値「15」です。

②ダイヤルを回して音量値を調整します。

→表示中にダイヤルを回すと、音量が増減できます。音量値は30段階（0～29）で増減できます。

③希望の音量値を選択したら、PTTキーを押します。

→通常の受信待ち受け状態に戻ります。

音量表示

段階	0～9	10～19	20～29
表示	0～9	ポインタ+0 ～ ポインタ+9 （ポインタ点灯）	ポインタ+0 ～ ポインタ+9 （ポインタ点滅）

●表示例

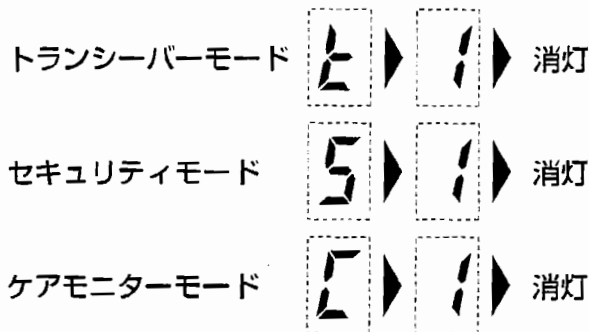
基本的な性能

電源ON時/送受信中の表示

本機には3つの通信モードがあります。(☞ P22) 電源ON時および送受信中の、ディスプレイの表示について説明します。

電源ON時

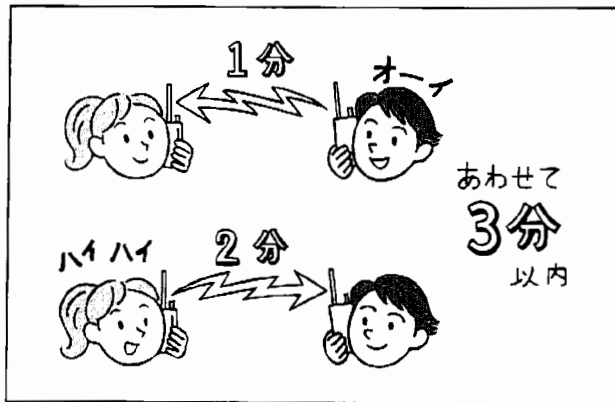
電源ON時、「モード状態を1秒間点灯」→「チャンネル番号を1秒間点灯」→「消灯」します。
工場出荷状態はトランシーバーモードです。

注意 本機は電池の消耗を抑えるため普段はディスプレイを消灯しています。
シガーライターケーブル (EDH-18) などの外部電源を使用している場合には、チャンネル番号を常時点灯します。

送受信中

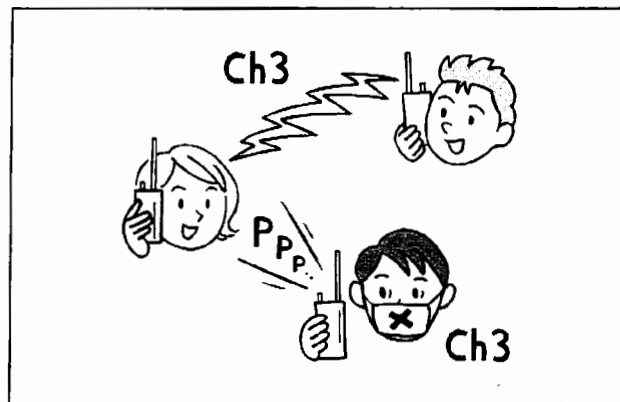
送信中はポインタが点灯します。受信中もポインタが点灯します。
電池使用時は、送信から受信に戻った際にチャンネル番号を2秒間表示します。
外部電源使用時、受信待ち受け中はチャンネル番号を表示します。

特定小電力の交信制限について

特定小電力トランシーバーの交信に関する制限事項を説明します。

3分制限（3分以上は連続で送信できません）

送信、受信合わせて3分以内です。
10秒前に警告音が鳴り、3分になると自動的に送信は停止します。

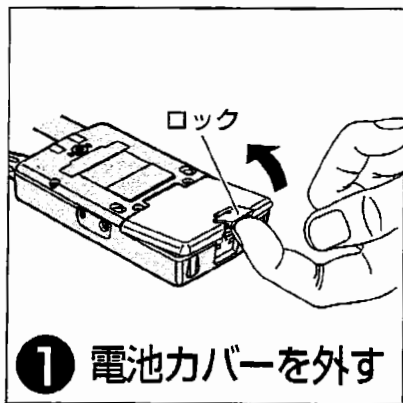
注意 3分の交信時間制限により、自動的に送信が止まった後は、2秒たたないと次の送信はできません。

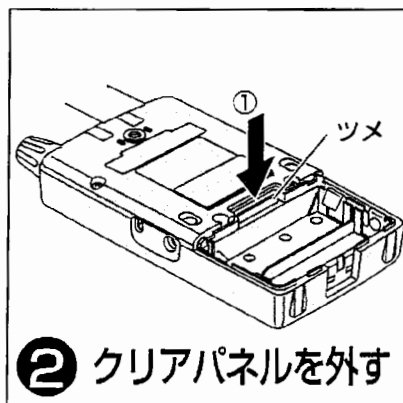
キャリアセンス（受信中は送信できません）

一定の強さの電波を受信している時はPTTキーを押しても送信できません。
受信中にPTTキーを押すとアラーム音が鳴り送信できないことを知らせます。

注意 ビープ音をOFFに設定している場合、キャリアセンスが働き送信できない時でもアラーム音は鳴りません。（☞ P42）

フェイスシートの交換

お客様がデザインしたオリジナルシートと交換する方法を説明します。

❶ 電池カバーを外す

①ロックを外します。
②カバーを開けます。

❷ クリアパネルを外す

①クリアパネルのツメを押し込みます。
→クリアパネルが浮き上がります。
②浮き上がったクリアパネルを本体から取り外します。

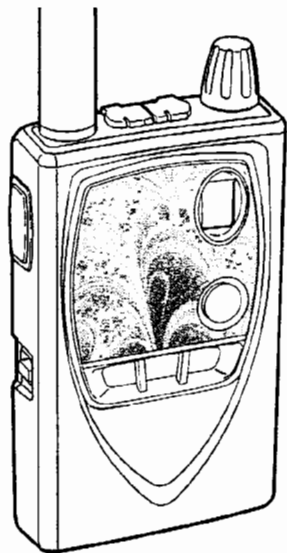
❸ シートを取り出す

クリアパネルの下に挟まっているシートを取り出します。

お客様がご用意した新しいシートを取り付けます。

付属の型紙を使用し、オリジナルシートを作成してください。

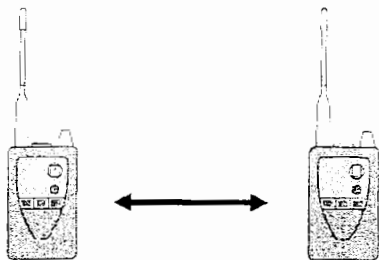
①上部にツメを挿し込みます。
②下部のツメを内側に寄せながら、矢印の方向へ差し込みます。

写真やイラストを使うと、より個性的なトランシーバーに変身させることができます。

3つの通信モード　各モードの概要

本機には3つの通信モードがあります。ここでは3つの通信モードの概要を説明します。

トランシーバーモード(Tモード☞P25)

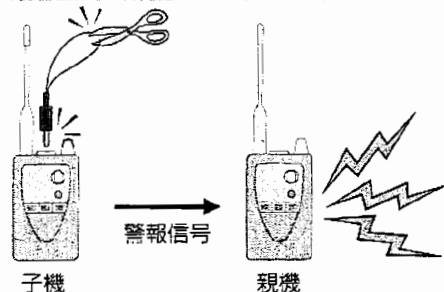
使用チャンネル
レジャー　　　：1～9CH
ビジネス　　　：1～11CH

もっとも基本的な単信通話モードです。工場出荷状態で電源を入れると、このモードになります。送信時にPTTキーを押して通話します。通話可能エリア内であれば、同じチャンネルの人は全員交信できます。

周波数構成が同じである他の特定小電力トランシーバーとも交信できます。

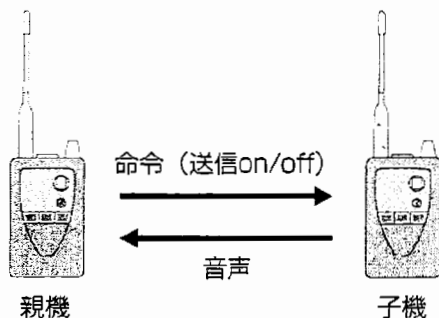
セキュリティモード(Sモード☞P27)

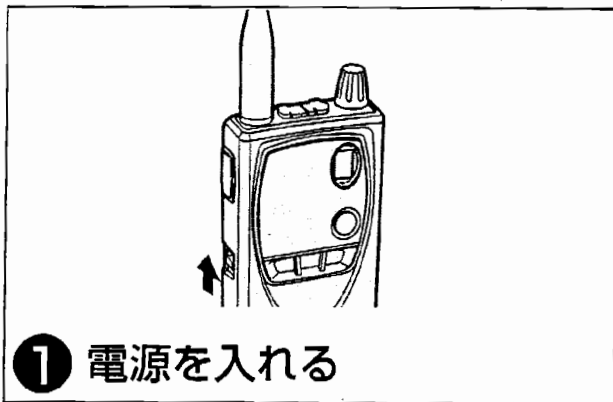
使用チャンネル
レジャー　　　：1～9CH
ビジネス　　　：1～11CH

本機を簡易的な警報装置として利用するモードです。付属のセキュリティケーブルが引き抜かれたり、切断されると、それを親機に知らせます。

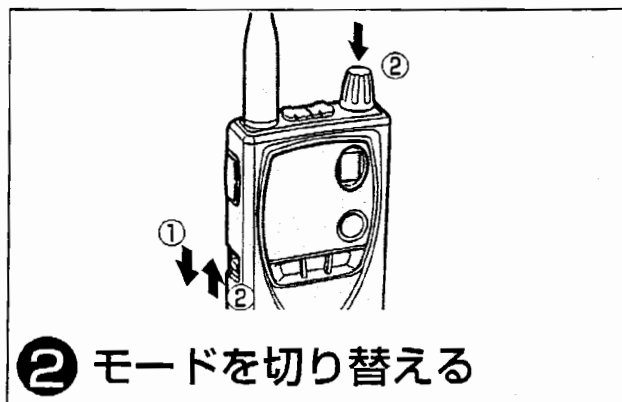
あくまでも簡易的な警報機能とお考えください。本機の誤動作、不具合により万が一損害が生じましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ケアモニターモード（Cモード☞P30）

使用チャンネル	
レジャー	：1～9CH
ビジネス	：1～11CH

本機2台を使って、親機から子機の送信をコントロールできます。乳幼児や病人の監視などに活用できます。

モードの切り替え方法

工場出荷状態で電源を入れると、もっとも基本的なトランシーバーモード（t モード）となります。

❶ 電源を入れる

電源スイッチを入れます。

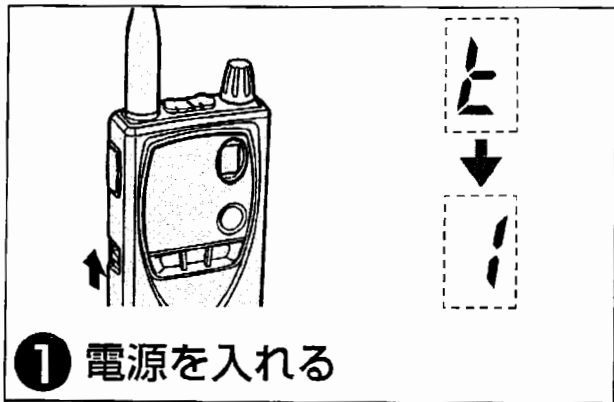
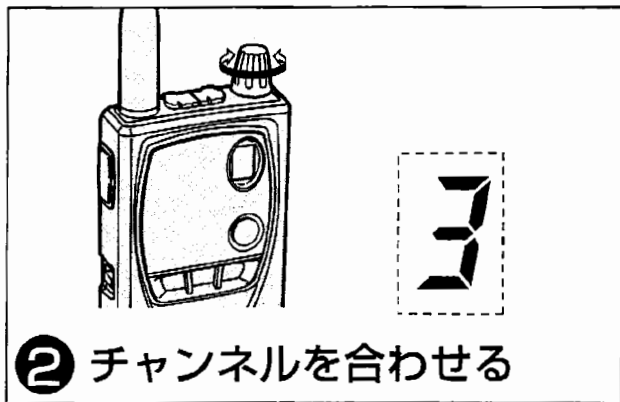
→トランシーバーモード（t）で電源が入ります。

❷ モードを切り替える

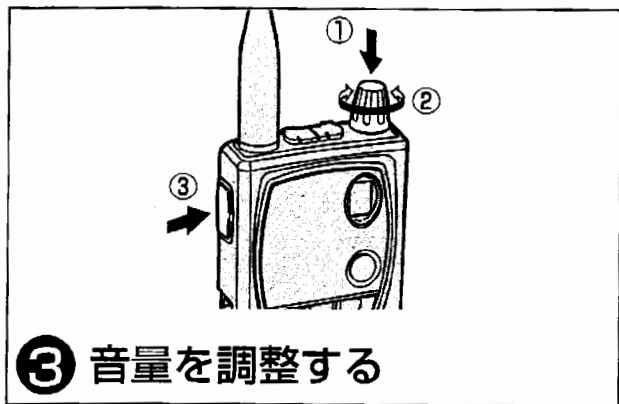
①電源をOFFにします。

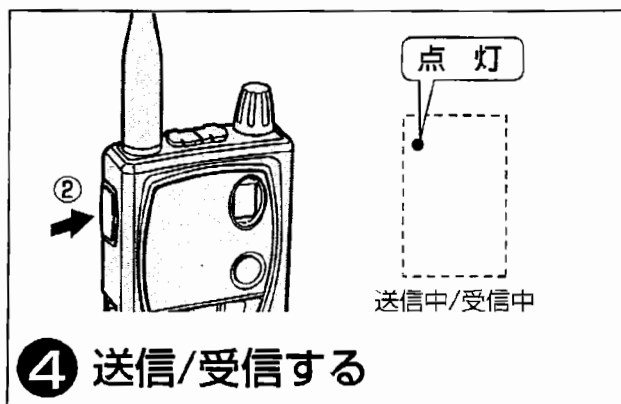
②ダイヤルを押しながら、電源スイッチをONにする操作を繰り返します。

→セキュリティモード（S）→ケアモニターモード（C）→トランシーバーモード（t）→セキュリティモード（S）・・・の順に繰り返して、モードが切り替わります。

トランシーバーモードの通信方法

もっとも基本的な単信通話モードです。

電源スイッチを上方向へスライドさせます。
→モード表示［t］→チャンネル表示［1］と表示した後、消灯します。(電池使用時)

ダイヤルを回してチャンネルを合わせます。

❸ 音量を調整する

①ダイヤルを1回押します。
②ダイヤルを回して音量値を調整します。
③希望の音量値になったところで、PTTキーを押します。
→音量値の表示が消えます。

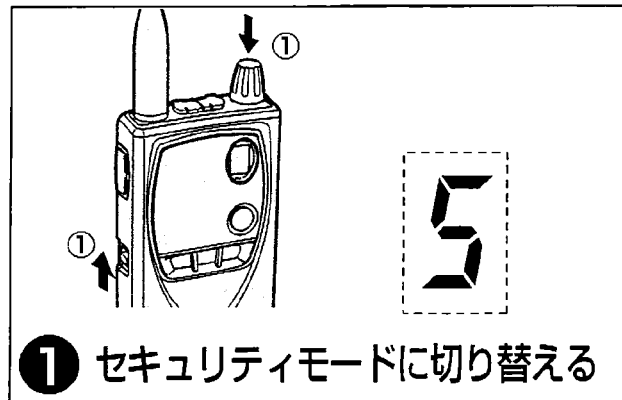
❹ 送信/受信する

①信号を受信すると、スピーカから相手の声が聞こえます。
→ディスプレイのポインタが点灯します。
②送信時は、信号を受信していないことを確認してから、PTTキーを押したまま、話します。

マイクに向けて話すときは、マイクと口元を約5cm離してください。

→ディスプレイのポインタが点灯します。
③PTTキーを離すと、「ピッ」と音が鳴った後、受信待ち受け状態に切り替わります。

セキュリティモードの通信方法

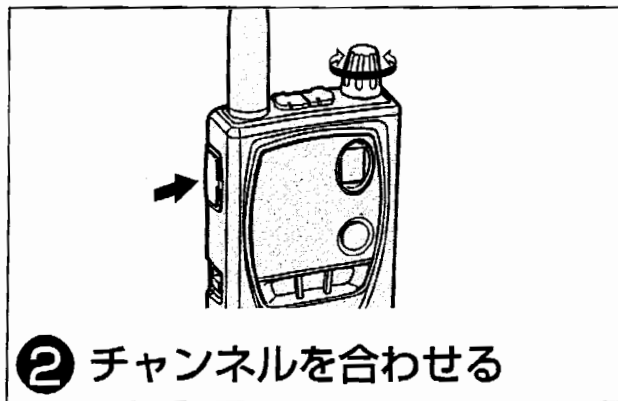
本機を2台使って、簡易的な警報装置として利用するモードです。

あくまでも簡易的な警報機能とお考えください。本機の誤動作、不具合により万が一損害が生じましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

❶ セキュリティモードに切り替える

①ダイヤルを押しながら、電源スイッチをONにします。

②電源ON後に、ディスプレイに「S」と表示されるまで、①の操作を繰り返します。

→「S」と表示されたら、セキュリティモードに切り替わります。

セキュリティモードに切り替えて電源をOFFにすると、次に電源をONにしたときも、セキュリティモードで立ち上がります。

❷ チャンネルを合わせる

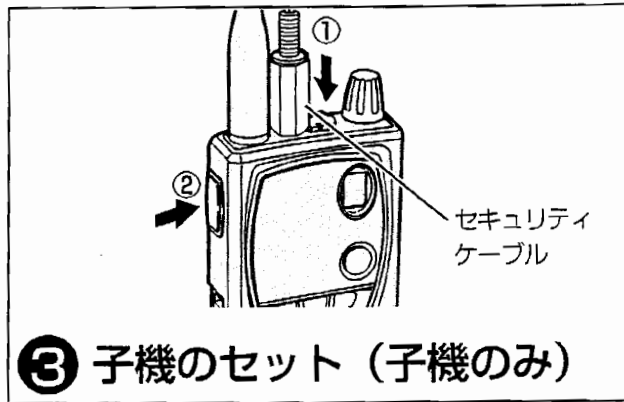
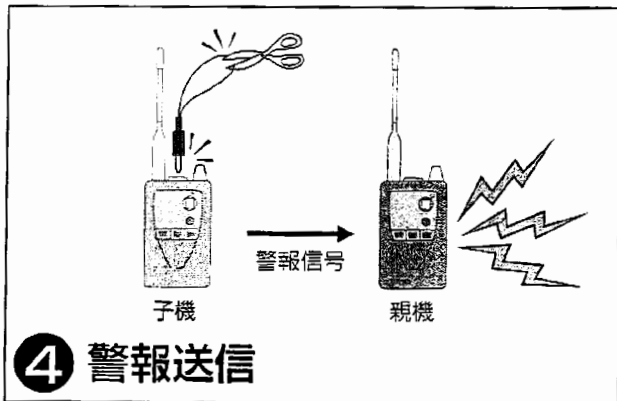
親機と子機のチャンネルを合わせます。

コードスケルチ機能をONに設定することもできます（☞ P38）。その場合コード番号（A～F）も同じに合わせます。

❸ 子機のセット（子機のみ）

①子機（警報送信機）のイヤホン端子にセキュリティケーブルを差し込みます。

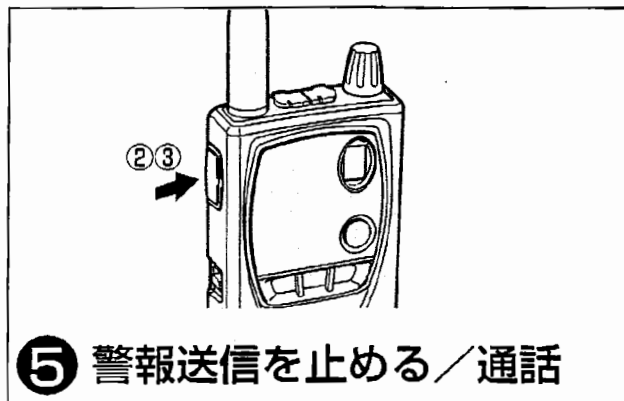
②PTTキーを押します。

→ディスプレイに「S」→「C」→「r」→「t」と表示され、警報送信機としてセットされます。

❹ 警報送信

セキュリティケーブルを抜いたり、切断したりすると、警報送信が始まります。

→親機は子機からの電波を受け、アラーム音が鳴ります。子機に異常があったことを知らせます。

ケーブルが引き抜かれた場合、子機自体もアラーム音が鳴りますが、ケーブルが切断された場合、子機からはアラーム音が鳴りません。

注意 親機、子機ともに音量を0にしているとアラーム音は聞こえません。

❺ 警報送信を止める／通話

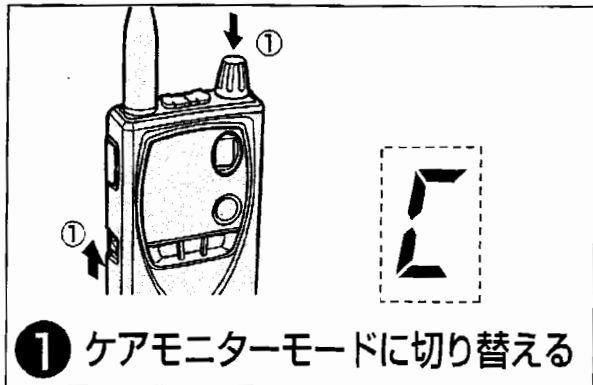
①警報送信を始めた子機は「5秒間アラーム音送信」→「5秒間音声送信」→「5秒受信」の間欠動作を繰り返します。

②子機の「5秒受信」中に、親機のPTTキーを押します。

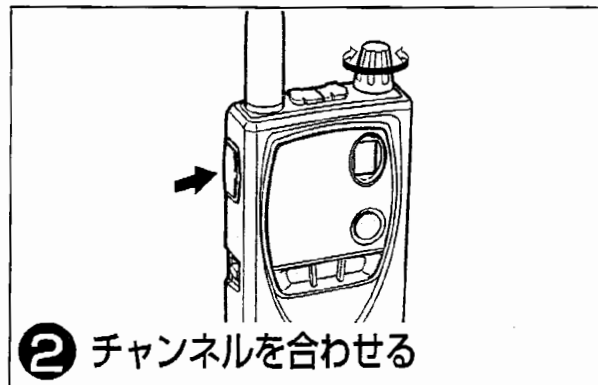
→親機からの電波を受信して、子機の警報送信が止まります。子機の警報送信が止まった後、親機と子機の間で通話できます。

③通話するには、PTTキーを押して通話します。

ケアモニターモードの通信方法

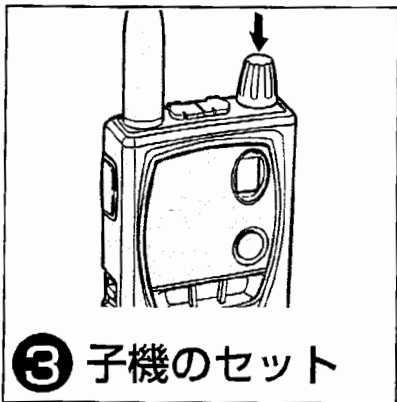
本機2台を使って、親機から子機の送信をコントロールできます。乳幼児や病人の監視などに活用できます。

❶ ケアモニターモードに切り替える

①ダイヤルを押しながら、電源スイッチをONにします。
②電源ON後に、ディスプレイに「C」と表示されるまで、①の操作を繰り返します。
→「C」と表示されたら、ケアモニターモードに切り替わります。

ケアモニターモードに切り替えて電源をOFFにすると、次に電源をONにしたときも、ケアモニターモードで立ち上がります。

❷ チャンネルを合わせる

親機と子機のチャンネルを合わせます。

コードスケルチ機能をONに設定することもできます（☞ P38）。その場合コード番号（A~F）も同じに合わせます。

❸ 子機のセット

ダイヤルを2秒以上押します。
→ディスプレイに［C］［A］［r］［E］と表示され、子機としてセットされます。この状態で親機からの送信命令を待ちます。

❹ 子機を送信させる

親機のPTTキーを押します。
→「ピピ」音が鳴り、子機の送信が始まります。子機は、「25秒送信」→「5秒受信」の間欠動作を繰り返します。

子機の送信時間を50秒に延長できます。(☞ P45)

❺ 子機の送信を止める

①子機の「5秒受信」中に親機のPTTキーを押します。
→「ププププ」音が鳴り、子機の送信が止まります。
②もう一度親機からの送信命令を受けると、また送信を始めます。

子機の電源を入れ直した時は、再度「❸子機のセット」を行ってください。

機能一覧

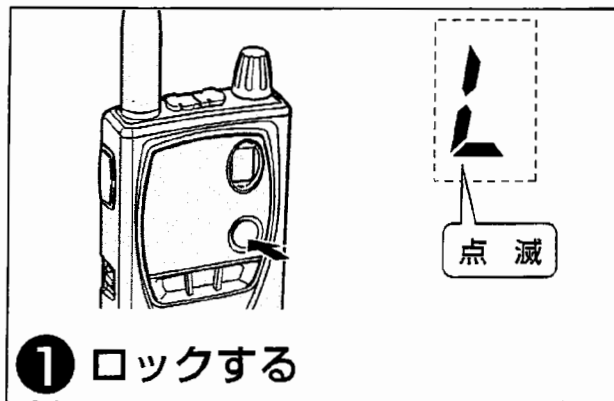
各モードで使用できる機能等を紹介します。

	トランシーバーモード	セキュリティモード	ケアモニターモード
トーン出力機能（☞ P37）（※1）	○	×	○
コードスケルチ機能（☞ P38）（※1）	○	○	○
キーロック機能（☞ P33）	○	○	○
緊急通報機能（☞ P34）	○	×	×
リセット（初期化）（☞ P35）	○	○	○

※1：トーン出力機能とコードスケルチ機能は同時に使用できません。
　　また、これらの機能はセットモードで設定します。（☞ P37～38）

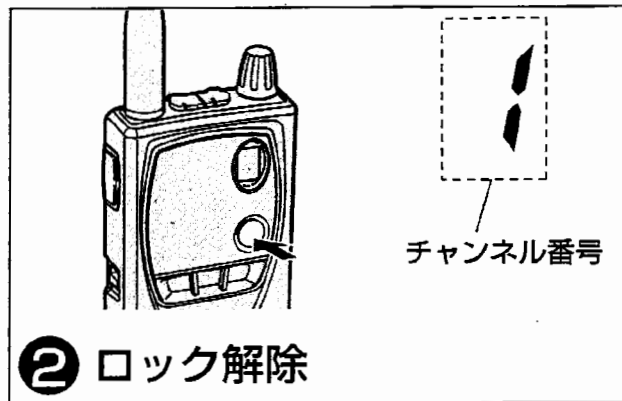
キーロック

キーロックを設定しておくと、誤作動などによる設定変更を防止できます。

❶ ロックする

Fキーを1秒以上押し続けます。

→「ピピピピピ」音が鳴り、「L」が点滅します。

・キーロック中でも送信、音量調整は操作可能です。
・キーロック中に電源を入れ直すとロック状態で電源が入ります。「モード」→「L」→「チャンネル番号」と表示されます。

❷ ロック解除

解除するには、再度Fキーを1秒以上押し続けます。

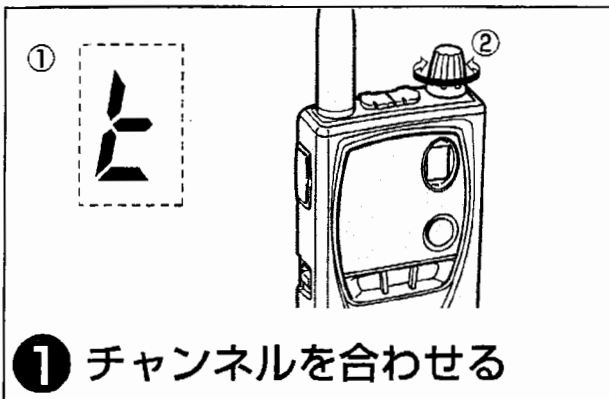
→「ピピ」音が鳴り、チャンネル番号を表示します。

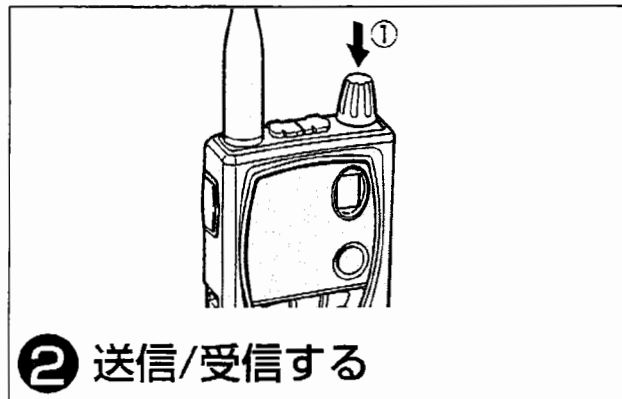
注意　キーロック中にダイヤルを回すと、「L」が点滅して、ロック中であることを知らせます。Fキーを押すと「ブッ」音（無効音）が鳴り、ロック中であることを知らせます。キーロックを解除してから各操作を行ってください。

緊急通報機能

本機を簡易的な緊急通報装置として使う機能です。普段はトランシーバーとして使用し、万が一の際には相手機にアラーム音で知らせます。

❶ チャンネルを合わせる

❷ 送信/受信する

①本機2台をトランシーバーモードにします。
②本機2台のチャンネルを合わせます。

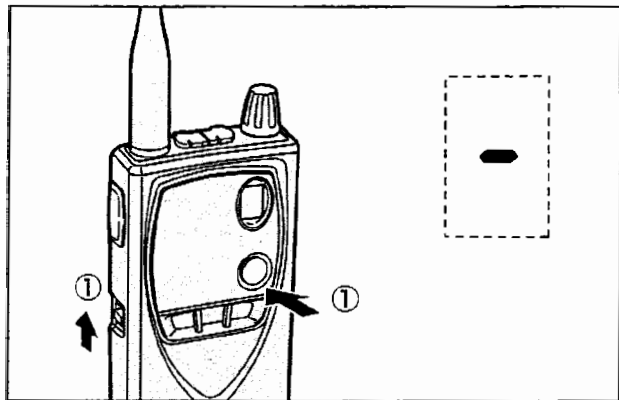
通常は、音声通話用のトランシーバーとして使用します。

①ダイヤルを3秒以上押します。
→緊急通報が10秒間送信します。

セットモードで「ケア送信延長機能」をONにすると、20秒間送信します。(☞ P45)

②相手機は緊急信号を受信し、アラーム音が鳴ります。

音量を0にしていると、アラーム音は鳴りません。

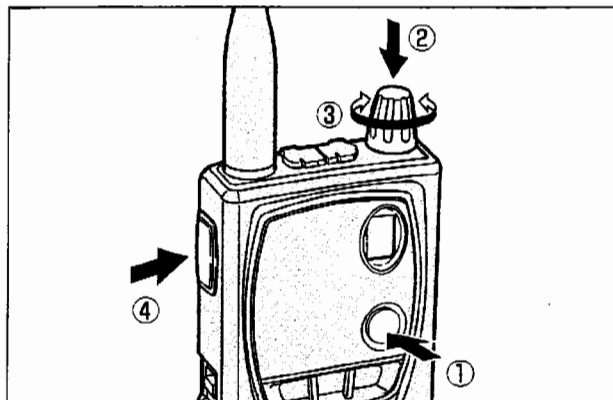
リセット（初期化）

リセットすると工場出荷状態に戻り、初期状態のトランシーバーモードになります。

①Fキーを押しながら電源を入れます。
②「-」の表示中にFキーを離します。

セットモード

セットモードの設定と設定一覧

セットモードは、各種機能をより使いやすくするために、本製品をカスタマイズする機能です。
次の項目が設定できます。

設定方法

①Fキーを押します。
②「F」点灯中にダイヤルを押します。
→セットモードの項目が切り替わります。
③ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
④PTTキーを押して、設定を確定します。

設定一覧

設定名	初期設定
トーン出力機能（☞ P37 ※1）	OFF
コードスケルチ機能（☞ P38 ※1）	OFF
充電機能（☞ P39）	OFF
バッテリセーブ（☞ P40）	ON
エンドピー（☞ P41 ※2）	ON
ビープ（☞ P42）	ON
スケルチレベル設定（☞ P43）	3
バッテリ表示（☞ P44）	ON
ケア送信延長機能（☞ P45 ※3）	OFF
PTTオフ機能（☞ P46）	OFF
蚊除け機能（☞ P47）	OFF
チャンネルタイプ選択機能（☞ P48）	※4

※1：トーン出力機能とコールドスケルチ機能は、同時に使用不可
※2：セキュリティモード、ケアモニターモードでは使用不可
※3：ケアモニターモードでのみ使用可能
※4：DJ-P9はレジャータイプ9チャンネル、DJ-P11はビジネスタイプ11チャンネル

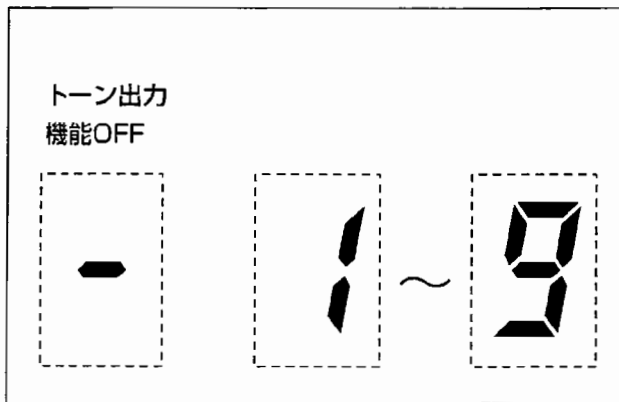
トーン出力機能

交信する相手機（本機以外）にトーンスケルチ機能（グループトーク機能）がある場合に使用します。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを1回押します。
→「-」が点灯します。

②ダイヤルを回して、トーン番号を選択します。
→トーン番号は、1~9の間で選択できます。

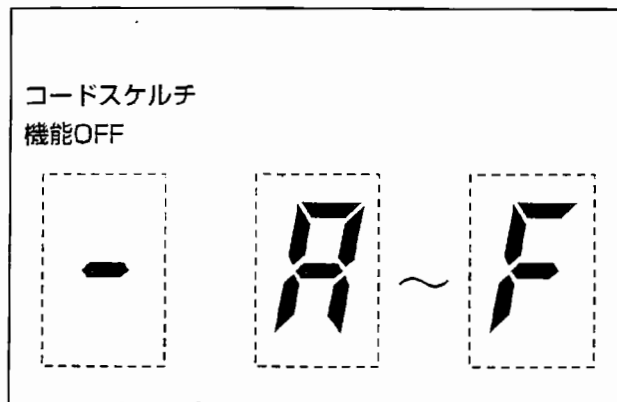
③PTTキーを押します。
→トーン番号が確定します。電池使用時は、表示が消えます。

外部電源使用時は、チャンネル表示に戻ります。

本機能はトーン信号を出力するだけで、トーンスケルチ機能（グループトーク機能）ではありません。

初期状態では、OFFに設定されています。

④再びPTTキーを押して、送信します。
→音声とともに、トーン（☞ P52）が送出されます。

コードスケルチ機能

コードスケルチ機能を使うと、同じコード番号に設定した人とだけ交信でき、混信を防ぐことができます。

本機能は原理上、受信電波が弱い状況では正常に動作しないことがあります。

初期状態では、OFFに設定されています。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを2回押します。

→「-」が点灯します。

②ダイヤルを回して、コード番号を選択します。

→コード番号は、A~Fの間で選択できます。

③PTTキーを押します。

→コード番号が確定します。電池使用時は、表示が消えます。

外部電源使用時は、チャンネル表示に戻ります。

④再びPTTキーを押して、送信します。「ピピ」と音が鳴ってから、話します。

→PTTキーを押した直後、約1秒間はコード信号が送出されます。

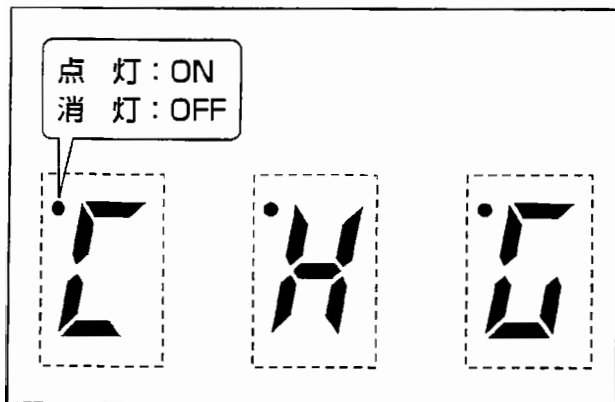
充電機能（CHG）

ニッケル水素充電池またはニッカド充電池を装着し、外部電源端子よりトリクル充電できます。

充電時間のめやす

1000mAhタイプ　：約20時間
2000mAhタイプ　：約40時間

本体の電源がON状態でのみ充電できます。
充電中も運用できます。
単三乾電池装着時は絶対に充電しないでください。液漏れなどの原因となります。

初期状態では、OFFに設定されています。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを3回押します。

→「C」→「H」→「G」と表示されます。

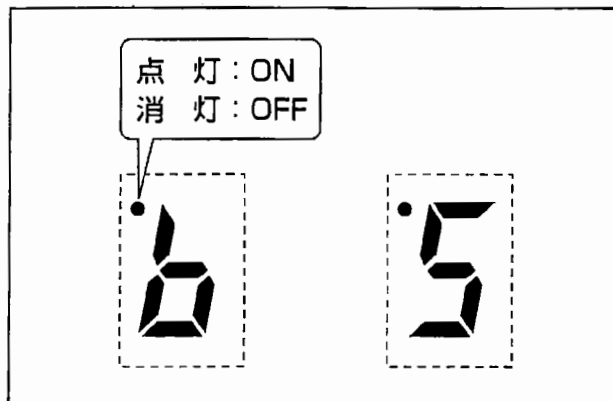
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。

→ポインタが点灯するとONとなり、充電できます。

③PTTキーを押して、設定を確定します。

→充電を続ける場合、本体の電源はONのままにしてください。

バッテリセーブ（bS）

待ち受け状態が5秒以上続くと、内部電源を定期的にON/OFFさせて、電池の消費を抑える機能です。

初期状態ではONに設定されています。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを4回押します。

→「b」→「S」と表示されます。

②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。

→ポインタが点灯するとONとなり、バッテリがセーブできます。

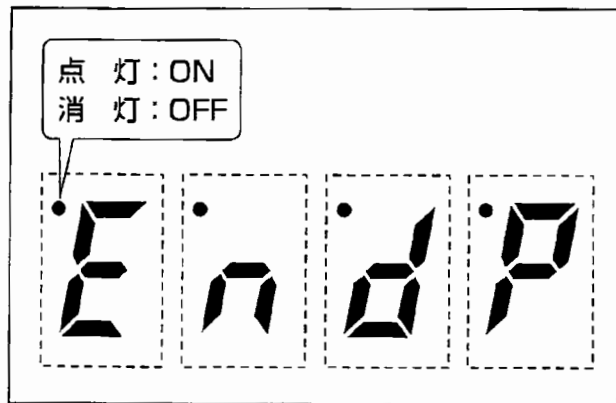
③PTTキーを押します。

→設定が確定します。

エンドピー（EndP）

PTTキーを離した時の「ピッ」音のON/OFFを設定します。

初期状態ではONに設定されています。

セキュリティモード、ケアモニターモードでは使用できません。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを5回押します。

→「E」→「n」→「d」→「P」と表示されます。

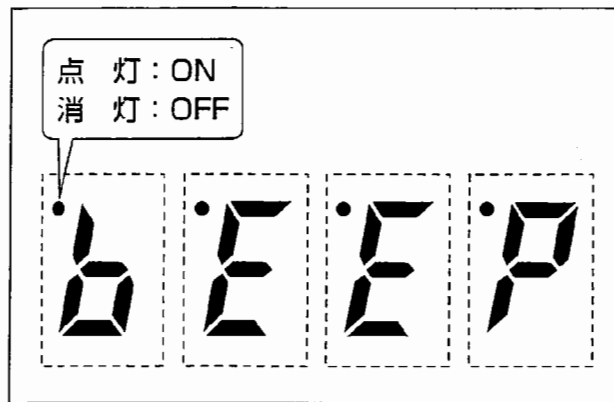
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。

→ポインタが点灯すると、エンドピー機能がONとなります。

③PTTキーを押します。

→設定が確定します。

ビープ（bEEP）

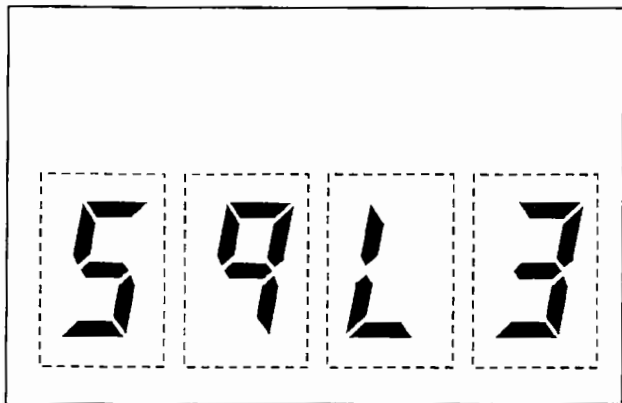
本機から鳴るビープ音（操作音）のON/OFFを設定します。

初期状態ではONに設定されています。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを6回押します。
→「b」→「E」→「E」→「P」と表示されます。

②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯すると、ビープ機能がONとなります。

③PTTキーを押します。
→設定が確定します。

スケルチレベル設定（SqL）

スケルチレベルを設定します。スケルチとは、受信時に信号がない時の「ザー」という雑音を消す機能です。

・初期状態ではスケルチレベルが3に設定されています。
・設定値を大きくするほど強い信号でスケルチが開くようになります。
・0に設定すると受信信号がなくてもスケルチは開いたままになります。

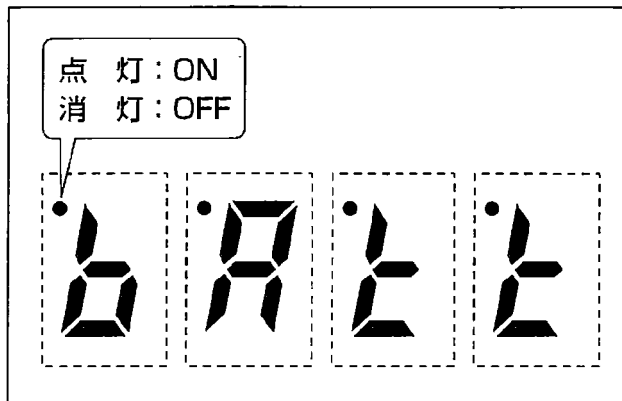
①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを7回押します。
→「S」→「q」→「L」→「3」と表示されます。

②ダイヤルを回して、レベルを調整します。
→レベルは、0~5の間で調整できます。

③PTTキーを押します。
→スケルチレベルが確定します。

セットモード

バッテリ表示（bAtt）

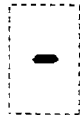
電池容量表示と電源切り忘れアラームのON/OFFが設定できます。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを8回押します。
→「b」→「A」→「t」→「t」と表示されます。

②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯すると、バッテリ表示機能がONとなります。

③PTTキーを押します。
→通常の状態に戻ります。

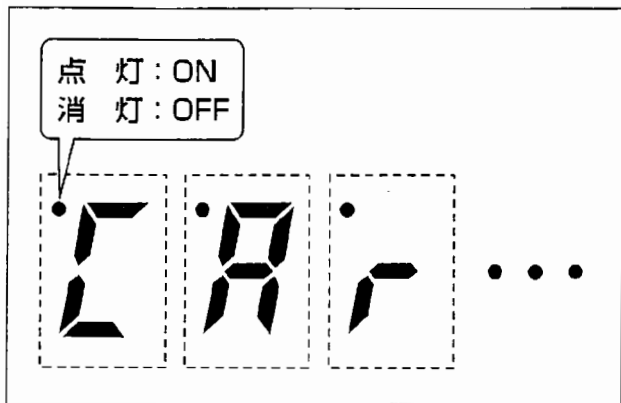
初期状態ではONに設定されています。

●電池容量表示

電池使用時、10秒に1度、電池の残容量を表示します。

●電源切り忘れアラーム

電源切り忘れ防止のため、無操作状態が30分以上続いた場合、「ププププ」というアラーム音が鳴ります。以後10分おきにアラーム音が鳴り、電源がONのままであることを知らせます。

ケア送信延長機能（CArE LonG）

ケアモニターモード子機の送信時間を延長できます。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを9回押します。
→「C」→「A」→「r」→「E」→「L」→「o」→「n」→「G」と表示されます。

②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯すると、ケア送信延長機能がON（50秒送信）となります。

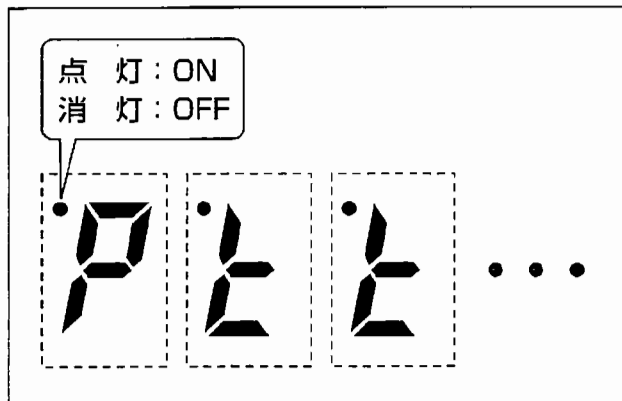
③PTTキーを押します。
→通常の状態に戻ります。

ケアモニターモード	
初期状態	：25秒送信/5秒受信
本機能ON	：50秒送信/5秒受信

・初期状態はOFF（25秒送信）に設定されています。
・本機能をONにすると、緊急通報機能の送信時間が20秒になります。（☞ P34）

注意：ケアモニターモード以外では使用できません。

PTTオフ機能（PttoFF）

本機を受信専用で使用する場合などに、本機からは送信できないようにする機能です。PTTキーを押しても送信できません。

初期状態はOFFに設定されています。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを10回押します。

→「P」→「t」→「t」→「o」→「F」→「F」と表示されます。

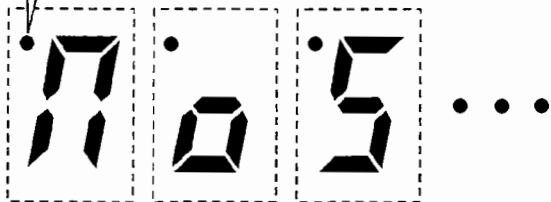
②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。

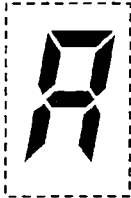
→ポインタが点灯すると、PTTオフ機能がONとなります。

③PTTキーを押します。

→通常の状態に戻ります。

蚊除け機能（MoSqUito）

本機のスピーカから蚊の嫌がる超音波を発生させる機能です。

初期状態はOFFに設定されています。

世界には、およそ数千種類の蚊が生息しており、蚊除け機能が効かない種類の蚊もいます。
蚊除け機能をONに設定すると、常時超音波を発生するため、バッテリセーブ機能は働かなくなり、電池の消耗が早くなります。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを11回押します。
→「M」→「o」→「S」→「q」→「U」→「i」→「t」→「o」と表示されます。

②ダイヤルを回して、ON/OFFを切り替えます。
→ポインタが点灯すると、蚊除け機能がONとなります。

③PTTキーを押します。
→通常の状態に戻ります。

チャンネルタイプ選択機能

本機で使用するチャンネルを、レジャータイプ9CH、ビジネスタイプ11CH、レジャー+ビジネス20CHから選択できる機能です。

初期状態では、DJ-P9の場合、レジャータイプ9CH、DJ-P11の場合ビジネスタイプ11CHに設定されています。

①Fキーを押し、「F」の点灯中にダイヤルを12回押します。

→DJ-P9では「L」が、DJ-P11では「b」が点灯します。

②ダイヤルを回して、チャンネルタイプを選択します。

→チャンネルタイプは、「L」「b」「A」のいずれかを選択できます。

「L」：レジャータイプ9CH
「b」：ビジネスタイプ11CH
「A」：レジャー+ビジネス20CH

③PTTキーを押します。

→チャンネルタイプが確定します。

チャンネル番号表示（☞ P16）

ディスプレイ表示

セットモードメニュー

	ディスプレイ表示	操作方法
トーン出力機能	-1~9	Fキー → ダイヤル1回押し
コードスケルチ機能	-A~F	Fキー → ダイヤル2回押し
充電機能	CHG	Fキー → ダイヤル3回押し
バッテリセーブ機能	bS	Fキー → ダイヤル4回押し
エンドピー機能	EndP	Fキー → ダイヤル5回押し
ビープ機能	bEEP	Fキー → ダイヤル6回押し
スケルチレベル設定	SqL	Fキー → ダイヤル7回押し
バッテリ表示	bAtt	Fキー → ダイヤル8回押し
ケア送信延長機能	CArE LonG	Fキー → ダイヤル9回押し
PTTオフ機能	PttoFF	Fキー → ダイヤル10回押し
蚊除け機能	MoSqUito	Fキー → ダイヤル11回押し
チャンネルタイプ選択機能	L → b → A	Fキー → ダイヤル12回押し

トーン周波数/オプション一覧

トーン周波数

トーン番号	出力トーン周波数（Hz）
1	67.0
2	71.9
3	74.4
4	77.0
5	79.7
6	82.5
7	85.4
8	88.5
9	91.5

オプション一覧

本製品のオプション一覧です。

EDH-18　シガーDC／DCコンバーター（DC12V系）
EMS-9　スピーカマイク
EME-6　プチ型イヤホン
EME-12A　VOX付きヘッドセット（ヘッドホンタイプ）
EME-13A　VOX付きヘッドセット（インナータイプ）
EME-15A　VOX付きタイピンマイク
EME-19A　ヘルメット用ヘッドセット
EME-20　イヤホンマイク
EME-21A　タイピンマイク

故障とお考えになる前に

本製品が故障かな?と思ったら、まずこちらをお読みください。

症状	原因	処置
電源が入らない。	電池の入れ方が間違っている。	電池を正しく入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい電池と交換してください。 充電池を充電してください。
音が出ない。 受信できない。	音量が低すぎる。	適切な音量に設定してください。
	相手とチャンネルが違う。	同じチャンネルに合わせてください。
	相手と距離が離れすぎている。	交信距離を目安に交信してください。
	コードスケルチが働いている。	コードスケルチを解除してください。 同じコード番号に合わせてください。
	PTTキーが押されて、送信状態になっている。	PTTキーを離してください。
「ザー」という雑音が出る。	スケルチレベルが低すぎる。	適切なスケルチレベルに設定してください。
送信できない。	信号を受信している。	信号がなくなってから送信するか、チャンネルを変更してください。
	通信モードを間違っている。	電源を入れ直して、通信モードを確認してください。
	交信制限時間を超過している。	PTTキーを離し2秒たってから、再度送信してください。
	PTTオフ機能が働いている。	セットモードでPTTオフ機能をOFFに設定してください。
キーを操作できない。 チャンネルが変わらない。	キーロックされている。	キーロックを解除してください。

●処置を施しても異常が続くときは、リセット(初期化)してください(☞ P35)。症状が回復する場合があります。

●電池が消耗していると、まれに誤動作することがあります。新しい電池に交換すると正常な状態に戻る場合があります。

定 格

送受信周波数	レジャーチャンネル	422.2000〜422.3000MHz（12.5KHzステップ）
	ビジネスチャンネル	422.0500〜422.1750MHz（12.5KHzステップ）
電波形式	F3E（FM）	
送信出力	10mW	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン	
受信感度	−14dBu以下（12dB SINAD）	
音声出力	80mW以上	
消費電流	送信時 約50mA	
	受信定格出力時（50mW） 約80mA	
	受信待ち受け時 約40mA	
	バッテリセーブ動作時（平均） 約15mA	
通信方式	単信方式、半複信方式	
定格電圧	DC2.4V〜3.0V	
外部電源	EIAJ規格 区分2 DC4.5V〜6.0V	
動作温度範囲	−10℃〜+50℃	
中間周波数	1st IF 21.7MHz	
	2nd IF 450KHz	
寸法	58（W）×100（H）×19（D）mm（突起物除く）	
重量	150g（乾電池含む）	